

第 150 回医療ビジネス研究会のご案内

世界最高レベルの平均寿命と保健医療水準を実現するわが国の皆保険制度(厚生労働省)では、国が有効と認めた疾病にかかる検査、薬や治療の医療費が保険適応となりますが、病気と診断されない場合や新しい薬や治療法、効果がはっきりしていない治療などは保険適応とはなりません。そのような状況が続くなかで、日本では病気や健康は医者任せという規範が浸透してきたようです。

一方、医療技術が進展しているにも拘らず、生活習慣病や癌などの罹患者が一向に減らない状況が続いています。直近(2018年)の国民医療費(43.7兆円)、介護費用(10.2兆円)は共に過去最高を記録しました。さらに、2025年になると団塊の世代が後期高齢者となることで、さらなる負担増が見込まれますが、財政的には仕方がないと割り切れる状況ではありません。

八方塞がりの状況を打開するには、高齢になっても健康で介護を必要としない人が多い社会を創る事ではないでしょうか。健康年齢を延伸させる理に叶った「真の健康づくり」と、「病気を治す」目的志向の医療の浸透が求められています。

今回は朝長氏(142回講師)をお招きし、同氏がサポートされているさくらクリニック福岡で実践されるプログラム・ベースド・メディシンに関してお話頂きます。同クリニックでは臨床医療の現場では時間的制約とメカニズムが難解な為、詳しくは説明されない生化学や生理学などの基礎医学に基づく医療を実践されています。また、同クリニックで提唱される COVID-19 への対応も解説戴きます。

生命活動は規則正しく行われることから、健康や病気の理解や対応を問題解決の手順を定式化するソフトウェア(プログラム)にたとえ、人の持ち備える機能(高性能コンピュータと精巧な化学工場)を長期に渡り効率よく動かすには、バグ(誤り・欠陥)のないソフトウェアの運用が必要と説明されます。人も機械も不調は早期に認識し、早期に対応することが基本ですが、現行の医療制度での早期は真の早期ではない事から、不調が認識された時点では高価で侵襲の大きな対応が必要な事が少なくありません。

理想的ソフトウェアの運用と医療制度の相違を理解し、その溝を埋める健康行動が期待されます。医食同源と云われていますが、医学の父ヒポクラテス(BC4年)も食と治療の関連において、「汝の食事を薬とし、汝の薬は食事とせよ」「食べ物で治せない病気は、医者でも治せない」との言葉を残しています。今一度、体のメカニズムを理解し的確な健康づくりと病気への対応を理解する良い機会です。奮ってご参加戴くようご案内申し上げます。

2020年5月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「これからの医療を拓くプログラム・ベースド・メディシンとは」=医療制度のジレンマと新型コロナウイルス(COVID-19)の克服を中心として=
- 講師:朝長健太氏 医師、株式会社産業予防機構 代表取締役社長、独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 研究員、元厚生労働省医系技官
- 開催日時:2020年6月17日(水曜日)18:30~20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会への参加をご希望される方はホームページより受講票をご請求ください。